

平成30年度 学校関係者評価報告書

学校法人岩谷学園
岩谷学園アーティスティックB 横浜美容専門学校
学校関係者評価委員会

評価対象: 岩谷学園アーティスティックB 横浜美容専門学校
ビューティースタイリスト科およびトータルビューティー科

評価期間: 平成30年4月1日～平成31年3月31日

評価日: 令和元年5月1日

1. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

評価項目		評価
1	教育理念・目的・育成人材像等	<p>前年度と同様、学校の教育理念、目的、育成する人材像は明確で、全教員によく周知・理解されている印象である。</p> <p>ただ、少子高齢化社会や美容師資格試験の受験者数の減少など、社会情勢が変化していく中で、将来を見据えた対応(マーケットの動向、新しいカリキュラムの導入等)を早急に検討していく必要がある。</p> <p>課題として、常に産学連携をする学校組織の継続があげられる。</p>
2	学校運営	<p>学校運営に関しては前年度同様に全般的に順調であり、学園や学校内の各種規則、規程やマニュアル等について、学園内のプロジェクト委員会等を中心に策定、改訂等が継続的に実施されている。また、情報システムによる業務効率化も進めており、一定の成果を上げていると評価できる。</p> <p>学生が自身の将来像をより具体的に描いていけるような工夫をしていくとともに、就職後のさらなる定着率UPのための教育への落とし込みが今後の課題である。</p>
3	教育活動	<p>教育理念に沿った教育課程の編成や「ストーリー性」を意識した教育の実施など、全般的にみて順調に推移していると判断できる。また、授業評価・授業アンケートおよび結果のフィードバックの継続的な実施により、PDCAサイクルが順調に機能していることも教育の質を高めている一因と評価できる。</p> <p>産学連携授業としては、技術向上のみならず実際の業務に有益な実践的なカリキュラム(セミナーの実施等)が積極的に実施されており、学生が多方面から美容に関する興味・関心を持てるよう工夫されている点は大いに評価に値する。</p> <p>教員の資質向上のための外部研修参加や自己研鑽についても計画的に対応しているが、継続して対応していくよう体制を整備していくことが必要である。</p> <p>学生の気質・価値観の変化に伴い、インターンシップ受け入れ企業の拡充とともに、その実施形態についての検討が今後必要と思われる。</p>

評価項目		評価
4	学修成果	<p>各種資格取得状況については、積極的にチャレンジする学生が多く、美容師国家資格 94.1%達成(神奈川県で 1 位)をはじめ、上級資格に挑む学生が増え、それに伴い取得者も年々増えており、良好な状態を維持していると判断できる。今後は社会情勢の変化をかんがみ、採択する検定の見直しをかけていく必要があると思われるが、引き続き意欲的に取り組んでいってほしいと思う。外部からの表彰もあり、日ごろの成果が出ていると思われる。</p> <p>就職率常時 100%達成を目指し、日ごろの指導については担任や授業担当者、キャリアセンターなど関連部門のスタッフの連携をより強化していくとともに、これからは離職率を限りなく低くすることが課題となってきている。現在カウンセリング有資格者(常勤者)が 2 名いることは、学生をサポートするうえで大きな強みにはなっているが、職業人としてのメンター教育にも今後力を入れていく必要がある。卒業数年経過後の動向については把握が難しく、卒業生の社会的な活躍状況を十分に評価できてはいない。今後、校友会やキャリアセンターとの連携を取りながら、動向把握のための仕組みづくりに取り組んでほしい。</p> <p>就職後に担任を訪ねやすい環境作りが必要。退職しても次のアドバイスができるようしたい。</p>
5	学生支援	経済的な支援体制については、校友会の奨学金制度が整ったことで、充実しているが、卒業生に対する支援については、十分でないと判断する。卒業生対象のHP(SNS)を作成するなど、気軽に連絡が取れるような仕組みづくりを検討しているが、個人情報やプライバシー保護の観点から注意すべき点も多々ある。その必要性をしっかり議論して運用に移行してほしい。
6	教育環境	<p>校舎内に整備されている Wi-Fi 環境を活用し、試験対策アプリなどの導入を行っている。今後もより活用できるよう、検討を進めてほしい。</p> <p>インターンシップについて:継続的に実施されているが、マイクのインターンシップ受け入れ先の確保が今後の課題となっている。</p> <p>海外研修について:研修先の治安悪化などがあり実施できていないが、研修内容や時期、場所など、学生の希望も参考にしつつ再度実施を検討してみてはどうか。</p> <p>防災について:校舎は新耐震基準をクリアしていること、災害用備蓄品の購入や避難訓練等も実施していることから、防災に対する対策は施されていると判断する。今後も引き続き対応をお願いしたい。</p>
7	学生の受け入れ募集	<p>学生募集活動は協定等を遵守し、公正に行われていると判断する。職業訓練生の受け入れという点でも、年齢の異なる学生たちがお互いに良い刺激を受けながら学生生活を送っているようである。</p> <p>少子高齢化や美容関係への就業意識の変化もあり、学生募集環境は変わらず厳しい状況ではあるが、職員全員が常に危機意識を持ち、学生受け入れの窓口である戦略広報企画局の職員とともに取り組んでいる様子がうかがえる。また、教育成果がより伝わるツール(主に SNS)の開発も常に検討、進められている。</p> <p>今年度は職業訓練生も受入 2 年目となり、また、定員もほぼ充足し、毎日活気のある授業が行われている。国家資格の合格率も高い水準で推移しており、教育内容も充実していることがうかがえるが、安定した入学生確保のために引き続き募集体制を強化していきたい。</p>

評価項目		評価
8	財務	今年度の入学者は昨年より増加したが、社会的に 18 歳人口の減少などが継続していることから、中長期的に財政は楽観できない状況が継続している。新しいマーケットの開拓、定員充足率の安定のための方策に早急に取り組む必要がある。開業したエステサロンについての運営状況は良好に推移しているため、新たな業務展開のためのビジネスモデルとして、財務基盤の安定化の一助となっていくのではないか。 教育の質を高めること、教員の資質向上を図ることで、退学者の低減が図れるよう、引き続き検討していきたい。
9	法令等の遵守	平成 30 年度も法令、規則、規程等に従い、コンプライアンスを重視し、日々業務を遂行していると判断できる。個人情報の保護、肖像権・著作権の取り扱いについては、教職員、学生を対象に研修や啓蒙活動を継続していることがわかる。学校自己点検・評価もHP 上で公開しており、積極的に情報公開を行っている様子が窺える。
10	社会貢献・地域貢献	学校は地域に根差したものでなければならず、ゆえに地域貢献・社会貢献は学校が担う社会的使命ともいえる普遍的なものである。これは岩谷学園の建学の精神に相通するものである。一部ボランティア等がおこなわれていることは評価できるが、まだ十分といえるレベルではない。教職員や学生それぞれが高い意識を持ち、学校として、教職員として、学生として、それぞれの立場で何ができるか、また学校の施設・設備を利用して何ができるかを、みんなで話し合い前に進んで欲しい。
11	国際交流	TB 科に中国より男性の受け入れあり。これを機に受け入れ態勢を拡大していく。学園全体としては多くの留学生を受け入れているので、このノウハウを活用し、留学生確保につなげていきたい。日本で美容師としての就労は極めて難しいが、社会変化の兆しはあるようである。母国での学歴が大学卒であるなどの条件によっては、美容業界で就労できる可能性が十分にあると思われる。

2. 総評

学校自己点検・評価の結果を基に、学校関係者評価委員会として、岩谷学園アーティスティックB横浜美容専門学校の学校評価は概ね「合格」と判断・評価する。

少子高齢化が進んでおり、18 歳人口がますます減少しているなかで、入学から就職へ向けて関係部署が連携して一貫した指導を行っていること、教育ストーリーの構築・見直し・更新を常に実施している様子が明確になっていることは高く評価できる。連携企業など外部からの情報を積極的に取り入れ、カリキュラムへの反映の模索も学校全体で取り組むことで、教育目標や理念の個々人への定着が実現していると思われる。

学生と教職員の距離が程よく、常に相談報告できる体制があり、学生一人一人が目標をもって学生生活を送れるよう、また、就労後も継続して社会に貢献していくよう、支援を継続していくってほしい。

教育信条である「職業人教育」を進めるにあたり、ボランティア等の地域貢献・社会貢献を経験できるような体験も重要かと思う。どのような形で実現できるのか、さらに研究を重ねて形にしてほしい。そして、社会のニーズを的確にとらえ、社会が求める人材を育成する、専門学校としての使命を果たしていかれることを期待する。